令和４年度　京都府立東舞鶴高等学校浮島分校　学校経営計画（ｽｸｰﾙﾏﾈｰｼﾞﾒﾝﾄﾌﾟﾗﾝ）（実施段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
☆地域を支える勤労青少年を育成するとともに、様々な入学動機や背景・事情を抱える多様な生徒の就・修学、進学・就職を支援する夜間定時制高校としての役割を果たす。 １　日々の授業を大切にするとともに、学習指導・進路指導・生徒指導の３つを一体的にとらえ、きめ細かい丁寧な指導を行うことにより学力を向上させ社会を生き抜く力を身につける。 ２　生徒一人ひとりが家庭・地域社会で認められ、学校生活の様々な場で成就感・達成感を持てるように導く。 ３　教職員と生徒が協働し、基本的な規範意識と倫理観、公共心や思いやりなど、人間性・社会性を育むとともに、安心・安全な学校にする。	（成果） １　教材の精選やＩＣＴ活用による授業改善により、生徒が理解しやすいと捉える授業の実施につながった。 ２　授業支援者や他教科教員の授業サポートによるティームティーチングにより、行き届いた生徒観察を行い、生徒の理解状況を把握して基礎学力に課題のある生徒への重点的な教科指導を実施することができた。 ３　前年度に引き続いてコロナ禍の影響が残る中で、学校行事の内容及び運営を改善し、生徒が主体的に参加できる行事を前年度よりも多く実施できた。 ４　多様な価値観を認め合う社会を形成するため、人権に関わる課題について学ぶ機会を設定し、生徒たちの意識を高めることができた。 ５　進路希望調査やキャリア教育の充実により、生徒の進路意識を高めることができた。４年生については、進路決定率100％を達成した。 （課題） １ 主体的で対話的な学習態度の育成 ２ ＩＣＴ活用による授業改善、研修の推進 ３ 体験学習、探究学習の充実 ４ 生徒がもつ課題の把握と解決への指導 ５ 計画的、組織的な進路指導の充実 ６ 良好な人間関係を築く人権学習の充実 ７ 保護者等との連携による課題解決 ８ 生徒各々に応じた適切な支援の充実	重点１　基礎・基本を重視した学習指導の充実 (1) 学びに向かう力を高めるように学習指導の工夫・改善を図るとともに、体験学習や探究学習等の充実も図る。 (2) ＩＣＴ機器等の効果的活用による、生徒の個別最適な学びの実現を図る。 (3) 基礎学力に課題のある生徒への重点的な学習指導により、単位不認定件数の減少を目指す。 重点２　コミュニケーションを大切にした生徒指導の充実 (1) 生徒の内面や生活状況等の把握に裏付けられた指導・支援を行い、好ましい態度を育成する。 (2) 人権感覚や規範意識を高め、自他を尊重する態度を育成する。 (3) 生徒の主体性を高め、学校生活の充実に寄与するように特別活動を工夫する。 重点３　生徒一人ひとりのニーズに対応する教育活動の推進 (1) 卒業後の進路を見据え、キャリア教育を学年に応じて実施し、進路決定のための個別指導を行う。 (2) 保護者等との連絡を密にし、保護者等と連携して課題解決にあたる。 (3) 生徒の背後にある様々な環境の改善に、可能な限り努める。 重点４　スマートスクール化及び安心・安全で前向きな学校づくりの推進 (1) コロナ禍を踏まえ、個々の生徒の健康管理、良好な校内衛生環境の実現を図る。 (2) ＢＹＯＤ時代にふさわしい予算配分・執行に努める。 (3) 教職員・生徒ともに、一人１台端末環境を活かした実践に挑戦する。

<table>
<tr><th>評価領域</th><th>重　点　目　標</th><th>具　体　的　方　策</th><th colspan="3">評価</th><th>成果と課題</th></tr>
<tr><td rowspan="6">重点１
基礎・基本を重視した学習指導の充実</td><td rowspan="2">学びに向かう力を高めるように学習指導の工夫・改善を図るとともに、体験学習や探究学習等の充実も図る</td><td>個々の生徒の状況に応じた指導の中で一歩でも伸長したことを認め、励まし、できる喜びを体感させる。
＜具体的方法＞
計画的な学力分析とそれに基づく学習指導の充実</td><td>B</td><td rowspan="2">A</td><td rowspan="6">B</td><td rowspan="6">基礎学力に課題のある生徒が一定数在籍しており、今後も学力定着のための取組を継続し、改善していく必要がある。
地域と連携した課題学習によって、地元産業を調査することができた。また、生徒がその調査をまとめ、対外的な発表を行う段階まで指導を進めることができた。
ほとんどの授業で、ＩＣＴ機器を活用した取組が進んでいる。今後は、生徒一人一台端末をさらに効果的に活用した授業展開を研究していく必要がある。
すべての教員が、ビジュアル教材を授業に取り入れ効果的に活用できているが、機器の不具合や反応の悪さなど、授業の展開リズムを損なう場面もあった。</td></tr>
<tr><td>教室内にこだわらない学習形態を工夫し、地域の資源を利用した体験やインターンシップに取り組む。
＜具体的方法＞
近隣地域をフィールドとした探究的な学習の充実</td><td>A</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ＩＣＴ機器等の効果的活用による、生徒の個別最適な学びの実現を図る。</td><td>一人一台端末の長所を生かし、様々な場面で活用し、固定概念にとらわれない教育の形態を開拓していく。
＜具体的方法＞
研究授業によるタブレット端末を活用した授業方法の研究</td><td>B</td><td rowspan="2">B</td></tr>
<tr><td>画像等を授業の中で多用し、生徒の理解を支援しながら、見るだけで終わらない生きた教材化に取り組む。
＜具体的方法＞
タブレット等を活用した画像教材の開発及び情報共有</td><td>B</td></tr>
<tr><td rowspan="2">基礎学力に課題のある生徒への重点的な学習指導により、単位不認定件数の減少を目指す。</td><td>少人数クラスの特性を生かし、生徒とのキャッチボールを多く取り入れ、表現力の乏しい生徒からの思いをくみ取っていくことで自信を持たせられるような授業展開を行う。
＜具体的方法＞
計画的な基礎学力補充の充実</td><td>B</td><td rowspan="2">B</td><td rowspan="2">ＩＣＴ機器によって、声を出せない生徒の意図を汲み取ったり、発表の機会を増やしたりする取組を行い、新しい手法による生徒とのキャッチボールができた。
時事的なニュース等に関心のない生徒が多くいるため、最新の話題にも食いつきが弱いが、個々の持つ興味を刺激することで効果的な指導をしている。</td></tr>
<tr><td>学校における学習内容と生活における事象を関連づけた教材を活用して生徒の興味関心を引き出し、学習意欲を高める。
＜具体的方法＞
報道で取り上げられる事象や自然現象等と関連づけた教材の開発と活用</td><td>B</td></tr>
</table>

評価領域	重　点　目　標	具　体　的　方　策	評価			成果と課題
重点２ コミュニケーションを大切にした生徒指導の充実	生徒の内面や生活状況等の把握に裏付けられた指導・支援を行い、好ましい態度を育成する。	「時間を守る」「あいさつをする」といった、社会において人間関係を円滑に構築できるソーシャルスキルを身につける。 ＜具体的方法＞ ソーシャルスキルトレーニング（ＳＳＴ）の導入、 あいさつ指導の充実、　遅刻指導等の充実	C	B	B	不登校傾向にある生徒が多く、教育相談会議等で情報の共有や手立ての検討を日常的に行い、指導の機会を設けた。しかし、全体的に欠席件数は減少せず、欠席につながる多様な背景への理解・アセスメントの深化が求められる。 保護者等連絡については頻繁に行ったが、連絡のとれない保護者等に対する対処が課題である。 学校行事等を契機に異学年交流を促すことができた。
		少人数で生徒や保護者等とのコミュニケーションがとりやすい雰囲気を活かし、生徒との対話及び保護者等との連携により生徒指導の充実を図る。 ＜具体的方法＞ 教育相談会議による生徒の課題把握、学校行事等による生徒間及び教員・生徒間の交流機会の充実、保護者連絡の緊密化	B			
	人権感覚や規範意識を高め、自他を尊重する態度を育成する。	健康かつ安全な社会を実現するための態度を養うための、学習機会を多く設ける。 ＜具体的方法＞ 各種講演会の内容充実、通信の発行	B	B	B	各種講演会については、生徒の実情を踏まえた上、体験的な機会になるよう内容を工夫した。 対生徒広報の通信は、昨年度と比較して増加したが、生徒に考える機会を多く持たせるまでには至らなかった。 人権意識を高め、人権に関わる諸課題に取り組む機会を設定していくことが課題である。 学校行事については、受動的な生徒が多い中で、生徒の活動を促す機会として機能している反面、主体性を育む機会になるようさらなる工夫が必要である。
		日ごろから人権感覚を養う機会を設け、他者理解を深め社会に広がる問題に意見を持つ態度を身に付けさせる。 ＜具体的方法＞ 人権学習の機会・内容の充実、通信の発行	C			
	生徒の主体性を高め、学校生活の充実に寄与する。	学校の特色を活かし、かつ生徒の特性を踏まえて内容や取り組み方を精査し、生徒が達成感を感じ前向きに取り組む活動を行う。 ＜具体的方法＞ 学校行事における生徒の主体的活動の充実	B	B		

<table>
<tr><th>評価領域</th><th>重　点　目　標</th><th>具　体　的　方　策</th><th colspan="3">評価</th><th>成果と課題</th></tr>
<tr><td rowspan="5">重点３
生徒一人ひとりのニーズに対応する教育活動の推進</td><td rowspan="2">卒業後の進路を見据え、キャリア教育を学年に応じて実施し、進路決定のための個別指導を行う。</td><td>総合的な探究の時間やＨＲを活用し、地元の産業の現状や将来展望について理解を深めるとともに自己の能力・適性・興味・関心に応じた職業選択に取り組む。
＜具体的方法＞
近隣地域の産業に関する探究学習の実施</td><td>A</td><td rowspan="2">A</td><td rowspan="5">A</td><td rowspan="5">２・３学年では総合的な探求の時間を活用して地元産業の研究を行い、夏季休業中に複数の企業等を２日間訪問して学習し、その成果について発表した。舞鶴の産業・仕事・生活について、市の担当職員による講演を通して、現状や特徴など具体的な理解を深めた。
ハローワーク等を活用して、アルバイト等を経験しながら日中を有意義に過ごすことが日々のキャリア学習となっている。
個々の生徒の能力を把握するため職業適性検査を実施し、計画的な指導と自覚したスキルアップへ繋げている。
４年生は保護者等と面談等を行いながら準備を進め、８名が新卒求人に応募し、全員の進路希望を実現することができ、社会人教育等も進めてきた。</td></tr>
<tr><td>個々の就業状況や能力を詳細に把握し、個別指導やキャリア学習を通じて個々のステップアップを図り、年間欠席日数５日以内、就職・進学率１００％を目指す。
＜具体的方法＞
進路希望調査に基づいた進路学習や進路講演会の実施</td><td>B</td></tr>
<tr><td rowspan="2">保護者等との連絡を密にし、保護者等と連携して課題解決にあたる。</td><td>就学や進学・就職にあたり、様々な支援制度の紹介と利用について相談し効果的な取り組みを進める。
＜具体的方法＞
就職または進学に関わる支援制度についての進路学習実施</td><td>A</td><td rowspan="2">A</td></tr>
<tr><td>個々の就学や進路指導について、保護者等の理解と協力を得られるよう連絡や面談などの取り組みを進める。
＜具体的方法＞
進路指導に関わる二者面談・三者面談の計画的実施</td><td>A</td></tr>
<tr><td>生徒の背後にある様々な環境の改善に、可能な限り努める。</td><td>卒業後の経済的・精神的自立を確かなものとするため、自己の環境を認識し改善する力を伸ばすための支援体制を構築する。
＜具体的方法＞
まなび・生活アドバイザー等、学校内外の支援者との連携・協働</td><td>A</td><td>A</td><td>A</td><td>必要に応じてＳＣ等との相談を実施した。ＨＲや探求の時間を利用してＳＳＴ活動を実施し、自分の現状をよく理解して将来をイメージすることにより、日々実力を伸ばしていく指導を進めている。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>評価領域</th><th>重　点　目　標</th><th>具　体　的　方　策</th><th colspan="3">評価</th><th>成果と課題</th></tr>
<tr><td rowspan="3">重点４
スマートスクール化及び安心・安全で前向きな学校づくりの推進
な学校づくりの推進</td><td rowspan="2">コロナ禍を踏まえ、個々の生徒の健康管理、良好な校内衛生環境の実現を図る。</td><td>自分自身の健康について意識できるような啓発、情報発信を保健だより、掲示物を通じて行う。
＜具体的方法＞
定期的な保健だよりの発行と必要性に応じた掲示物掲示</td><td>B</td><td rowspan="2">B</td><td rowspan="9">B</td><td rowspan="9">保健だよりの発行と掲示物の掲示を行った。個人への保健指導は必要に応じて行った。
環境検査結果の周知ができた。日々、窓や扉を開ける、サーキュレーターをつけるなどにより換気し、良好な衛生環境づくりを実施した。感染症対策について話した後、サーキュレーターの利用方法について関心を寄せる生徒が現れるなど、感染症対策意識が高まる様子が見られた。

授業内での学習用端末の使用については、各教科を中心に効果的な活用場面を検討しており、ＨＲや分散授業での活用も増加しており、端末の長所を活かそうとする教員側の姿勢も随所に見られた。生徒自身が工夫しながら端末を活用する授業づくりが課題となる。
職員研修は全４回実施したが、知識や技能の向上には足りない部分もあった。デジタル教育支援センター等の活用を続け、年間を通して体系的な技能向上及び授業造りへの応用に努めたい。</td></tr>
<tr><td>環境に意識を向けさせるために、換気や照度等、環境衛生検査の数値化した結果を生徒にも周知する。
＜具体的方法＞
保健だより等による検査結果の周知</td><td>B</td></tr>
<tr><td>ＢＹＯＤ時代にふさわしい予算配分・執行と環境整備に努める。</td><td>学習用端末の利用・管理を円滑かつ効率的に進めるために、ハード・ソフトを問わず必要な手立てを実施する。
＜具体的方法＞
アプリ有効活用のための講習会開催、管理機器の整備、必要な機器等の即自的入手、施設・設備の可及的速やかな整備</td><td>C</td><td>C</td></tr>
<tr><td rowspan="2">教職員・生徒ともに、一人１台端末環境を活かした実践に挑戦する。</td><td>生徒の情報モラルを育成しながら、自由な発想を促して授業内で主体的に活用させる。
＜具体的方法＞
学習用端末を活用した課題提出、探究活動内での自由な活用</td><td>B</td><td rowspan="2">B</td></tr>
<tr><td>授業・ＨＲ活動を問わず教職員の学習用端末活用を進め、学びの個別最適化を図るための活用推進を日常的に行う。
＜具体的方法＞
職員研修の充実、端末管理の効率化、利用規則等の作成</td><td>B</td></tr>
</table>

学校関係者評価委員会による評価	○　ソーシャルスキルを身につけることは、社会に出るために重要な取組であるので、今後も重点的に取り組んでほしい。 ○　現代社会の中に「自分ファースト」という考え方があることは否定できないので、他者理解を深めて人権感覚を養う取組を今後も進めてほしい。 ○　高等学校において生活面や学習面で課題を抱えている生徒や特別な支援を要する生徒は、中学校の段階ですでに同様の状況下にある生徒が多いので中学校との連携も重要である。 ○　卒業証書授与式に臨席したが、卒業生の態度が良かった。４年間で自信をもって卒業できる生徒を育成してもらいたい。 ○　一般的な定時制課程の傾向として、不登校経験者や要支援生徒の割合は増大している。浮島分校においても特別支援コーディネーター等の活用により該当生徒の支援を手厚くしていくことが重要であろう。 ○　特別な支援を必要とする生徒については、卒業に向けて４年間手厚い支援をお願いしたい。 ○　先生が生徒にしっかり関わって綿密な指導ができていると思う。要支援生徒の増加を考えると、人的支援がもっと付いてもよいのではないか。 ○　定時制の教育活動の中に、全日制課程との交流も考えていけばよいのではないかと思う。 ○　学習用端末（タブレット）が単に紙の代用で終わってはいけないと思う。生徒の力を伸ばす学習用端末の活用を実践していただきたい。

次年度に向けた改善の方向性	１　学習用端末（タブレット）を活用した授業が充実した内容となるよう、研修や研究授業等によって教材や指導方法等を探究する。 ２　社会に出るために必要なソーシャルスキルを身につけるために、ソーシャルスキルトレーニングを計画的に実施するとともに、各種の学校行事においてソーシャルスキルが身につく機会となるよう計画し生徒を指導する。 ３　生活面や学習面で課題を抱えている生徒や特別な支援を要する生徒については、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、生徒の出身中学校等関係諸機関と連携して生徒の指導・支援を行う。 ４　基礎学力の向上を目指し、学習用端末の活用のみならず、定期考査前の学習会や成績不振生徒への補充指導を充実させる。 ５　特別支援コーディネーターを中心に、特別な支援を必要とする生徒に対する支援について計画し、全教職員が理解した上で有効な手立てを実施する。 ６　総合的な探究の時間を充実させて、地域を理解し、地域と繋がる学習を実施する。